

第21回アドバイザリー・ボード会合の概要

「アドバイザリー・ボード」の第21回会合の日時・出席者・概要等については、以下に示すとおりである。

日 時：2023（令和5年）年3月23日（木）14時00分～16時00分

場 所：大会議室

出席者：

アドバイザリー・ボード委員（規程順・五十音順、敬称略）

鳥居敬、舟橋孝之、ポール・マイルズ、三宅卓、岡田将稔（宮田敦の代理）、

川上智子、八木一法

研究科教員

國部克彦、鈴木竜太、内田浩史、原田勉、山崎尚志、高田知実、森直哉、

梶原武久、上林憲雄

初めに、國部研究科長から、経営学部・経営学研究科の教育プログラムについて、令和4年度と令和5年度の取組み概要として、経営データ科学教育プログラム5年一貫コース、スタートアップアントレプレナーLTV 最大化プログラム、KIMAP（Kobe University Interdisciplinary Master Program）、企業からの寄附による研究教育センターと寄附講義、ネットワーク型大学院学位プログラムについて説明があった。

次に、内田副研究科長・大学院教務委員から、経営データ科学教育プログラムについて、学部生向けのデータサイエンス、データ分析のプログラムであり、神戸大学の特長として経営学に基づいたデータ分析であることと5年一貫の修士までのコースである旨の説明があった。また、連携大学院講座等において企業との連携を進めていく旨の説明があった。

引き続き内田副研究科長・大学院教務委員から、KIMAPについて、3研究科（法・経済・経営）が連携した英語のみの1.5年修士教育プログラムで、世界の様々な国の学生から応募がある旨の説明があった。また、海外著名大学の研究者を招へいして授業を行うとともに共同研究も行うこと、企業との連携も検討している旨の説明があった。

次に、原田 MBA 教務委員から、MBA アントレプレナーシッププログラムについて、令和4年度は日本貿易振興機構（ジェトロ）のプロジェクトに採択され、スタートアップアントレプレナーLTV 最大化プログラムとして国内研修（講義、特許・市場調査等）と海外派遣（英国の大学や企業でプレゼンテーション等）を行ったこと、令和5年度以降はアントレプレナーシップ科目をより充実させていく旨の説明があった。

次に、鈴木副研究科長・評議員から、ネットワーク型大学院構築事業について、文部科学省による人文・社会科学系大学院の改革を目的とした令和5年度からの補助事業であり、本研究科の課題や社会からの今後の需要を背景に申請に向けて検討を進めていること、Business Value Creation プログラム構想として、新しい事業や価値創造を行える人材を育成すること、また、異なる科目で特色を持つ本学含めた3大学に加えて企業（連携大学院講

座) という 4 つの組織体制を検討している旨の説明があった。

これらの報告の後、本研究科が取り組んでいる内容に関してアドバイザー・ボード委員から、統計やデータ分析に加えて多様な分野からの教育（プログラミング、アート、デザイン、忍耐力、ファンディング、実践力、人的資本など）、学生同士の交流促進、MBA 修了後のコース設計など多岐にわたるアドバイスやコメントがあり、出席者による活発な意見交換が行われた。